2011/12/10

ラナウレクリエーションゴルフクラブの状況

当ゴルフコースは，1973 年に，Overseas Mamut Rural Development (OMRD，日本企業による銅山の合弁会社)で働く日本人の福祉施設として Ranau Recreation Club (RRC)の土地を借用して開発されました．1994 年に銅山が OMRD から Mamut Copper Mine (MCM，マレーシアの会社)に譲渡されたとき，ゴルフ場は RRC に返還されました．

しかし，RRC は活動的でなく，ゴルフクラブの運営は Ranau Golf Club (RGC)が行い，RGC は「会員制」ゴルフクラブとして，会員を獲得しゴルフ場を維持してきました．

2005 年，RRC は「その土地の所有権を自分たちのものである」として明け渡すよう RGC に要求しました．しかし，両者の間に書かれた同意書は存在せず，サバ州の裁判所で調停が行われ，両者は 2010 年 12 月 1 日に合体し，Ranau Recreation & Golf Club (RRGC)として発足することになりました．

RGC と RRC の会員は，自動的に RRGC の会員になり，6月末任期の暫定的な経営陣が発足しました．「2011 年 6 月に会員による選挙を行い，新経営陣を確定する」ということが裁判所の決定事項であると聞いていましたが，実際には選挙は行われませんでした．

2011 年 7 月 1 日，RRC を主体とする新体制が発足し，ゴルフ場の運営が「会員制」から「パブリック制」に変更され,プレイヤーは，「パブリック制」にもとづく料金を支払ってプレイすることになりました．本年度（2011 年度）の会費（グリーンフィー）を支払っている会員は，有効期間内はフリーにプレイできますが，その後は，新料金を支払わなければなりません．

「パブリック制」に変更された最大の理由は，収入増を図ることだったようです．RGC 会員の中に年会費を納めずプレイする人がかなりいて，ゴルフ場の維持費および従業員やパートタイム労働者の人件費の支払いに支障を来たしていたそうです．

7 月に入って，スタート前にグリーンフィーの支払いがチェックされるようになりました．当然のこととは言え，改善の兆しが伺え，真によいことだと思います．

新料金体系は日本人長期滞在者から見ると廉価ゆえ，引き続き当地でゴルフライフを楽しむことができると思います．しかし，RGC 会員から見ると，会員の権利が失われたことになるので，素直に承服することはできないでしょう．実際，一部の RGC 会員が弁護士と相談する動きがあるようです．

RGC と RRC の係争が円満に解決するためにはもう少し時間を要しそうです．

現在，RGC は，ゴルフコースを有しない会員組織として活動を継続しています．従って，ラナウには，パブリック制ゴルフコースを運営する RRGC とゴルフコースを有しない RGC という二つのゴルフクラブが存在します．

参考資料；

RRGC のホームページ：http://rrgcblog.blogspot.com/

RGC のホームページ：http://ranaugolf.blogspot.com/